

野川マップ

生きもの観察のすすめ

野川とハケの森には、魚や鳥、昆虫や草花など、たくさんの生きものが生息しています。ここでは、野川流域で良くみかけることのできる水辺と緑地の生きものを紹介します。



水生生物の観察

野川では、ドジョウやメダカ、コイやナマズ、スズエビ、スッポンなどたくさんの生きものを見ることができます。湧水地は、低水温できれいな水が流れ、ホトケドジョウやサワガニなどを見ることができます。

野鳥の観察

野川を代表する鳥として、カワセミが見られます。また、カモの仲間やサギの仲間など多くの鳥に出会うことができます。ハケの森では、オオタカやフクロウなどにも出会うことができます。

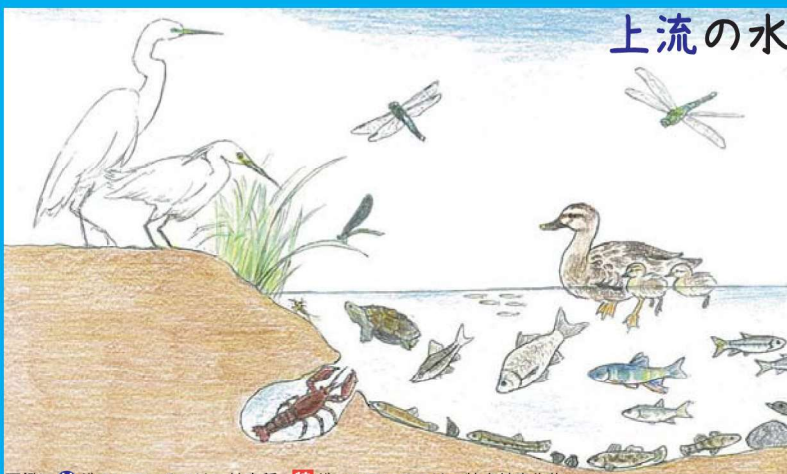


昆虫の観察

ハケの森では、カブトムシやクワガタ、チョウの仲間を見ることができます。水辺では、多くのトンボの仲間やゲンジボタルなども見られます。

植物の観察

野川では、ヒメガマやヨシ、湧水地では、ミクリやセキショウなどを見ることができます。ハケの森では、クヌギやコナラなどの樹木や、キツネノカミソリやニリンソウなどの花々が見られます。



上流の水

図鑑に外がついているのは、外来種。特がついているのは、特定外来生物。

鳥類 ※留鳥(りゅうちょう)とは、年間を通して野川周辺に生息し、季節による移動をしない鳥。
 カルガモ：留鳥 60.5 cm
 コガモ：冬鳥 37.5 cm
 カイツブリ：留鳥 26 cm
 コサギ：留鳥 61 cm



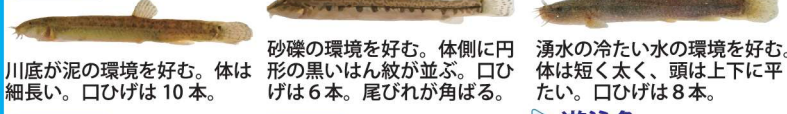
くちばしの先は黄色。5～8月頃ヒナを連れて家族が見られる。
 オスは頭部が栗色、目の周囲が緑色。カモ類で一番小さい。
 カモ類より小さい水鳥。盛んに潜水し小魚や昆虫を食べる。
 くちばしが黒色、指先が黄色。指先で魚を追い出し捕食する。

昆虫類
 アオモイトトンボ：4～9月 30～35 mm
 シオカラトンボ：5～11月 47～61 mm
 ウスバキトンボ：6～10月 44～54 mm
 ハグロトンボ：6～11月 57～68 mm



オスのお腹は緑色に輝く。水のきれいな緩い流れに生息。
 オスの腹部の第8・9節が水色。メスは同色型と異色型がいる。
 オスもメスもお尻の先が黒い。メスは別名むぎわらトンボ。
 水辺で良く見られる。翅の幅が広く、体は赤褐色。

魚類 ▶ 底生魚
 シマドジョウ：10 cm程度
 ホトケドジョウ：6 cm程度
 ドジョウ：10 cm程度

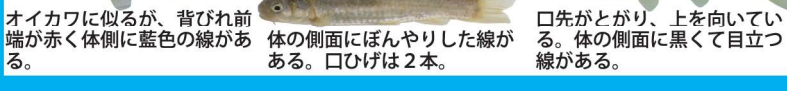


川底が泥の環境を好む。体は細長い。口ひげは10本。
 砂礫の環境を好む。体側に円形の黒いはん紋が並ぶ。口ひげは6本。尾びれが角ばる。
 湧水の冷たい水の環境を好む。体は短く太く、頭は上下に平たい。口ひげは8本。

カマツカ：13 cm程度
 ナマズ：50～70 cm
 ▶ 遊泳魚
 ミナミメダカ：5 cm程度



体やひれに斑紋があり、口先は長く下に尖る。砂礫の環境を好む。口ひげは2本。
 背びれが小さい。口ひげは4本あり2本は非常に長い。夜行性。
 目が大きい。しりびれが幅広くて長い。
 カワムツ：15 cm程度
 タモロコ：8 cm程度
 モツゴ：8 cm程度



オイカワに似るが、背びれ前端が赤く体側に藍色の線がある。
 体の側面にぼんやりした線がある。口ひげは2本。
 口先がとがり、上を向いている。体の側面に黒くて目立つ線がある。

野川流域の水辺の生きもの

辺の様子



湧水地
上流には、多くの湧水地がありますが、川の水量は下流より少なく、ほとんどが浅い流れとなっています。また、湧水が流れ込むため、低い水温やきれいな水を好む生きものが比較的多く見られます。

下流の水



水辺の生きもの図鑑

<p>ダイサギ：留鳥 90 cm</p> <p>くちばしは夏に黒色、冬に黄色になる。写真右の鳥はコサギ。</p>	<p>アオサギ：留鳥 93 cm</p> <p>日本で一番大きなサギ。半夜行性で昼間はよく休息している。</p>	<p>ゴイサギ：留鳥 57.5 cm</p> <p>夜行性で、日中はじっとし、夕方になると餌場に飛び立つ。</p>	<p>カワセミ：留鳥 17 cm</p> <p>「水辺の宝石」と呼ばれる。水中に飛び込んで魚を捕える。</p>	<p>カワウ：留鳥 82 cm</p> <p>潜水して魚を食べる。濡れると翼を広げて乾かす。</p>	<p>バン：留鳥 32 cm</p> <p>足は黄緑色で指が長い。警戒心が強く水辺の草に隠れる。</p>	<p>イソシギ：留鳥 20 cm</p> <p>尾を上下に振りながら水辺を歩き、水生昆虫等を食べる。</p>	<p>タシギ：冬鳥 27 cm</p> <p>長くくちばしを泥の中にさしこんで、ミミズなどを食べる。</p>		
<p>ギンヤンマ：5~10月 65~84 mm</p> <p>オスの腹部のつけ根は、水色、メスは黄緑色。</p>	<p>オニヤンマ：6~10月 82~114 mm</p> <p>日本最大のトンボ。幼虫の頃は湧水地に生息。</p>	<p>アキアカネ：6~12月 32~46 mm</p> <p>アカトンボの代表種。夏に山手に移動、秋に低地に現れる。</p>	<p>ミヤマアカネ：7~11月 30~41 mm</p> <p>ミヤマとあるが川べりや調節池の田んぼに生息。</p>	<p>ゲンジボタル：5~7月 15 mm</p> <p>幼虫(右)は湧水地でカワニナを食べる。6月頃羽化し、光を使った繁殖を行う。</p>	<p>植物</p> <p>オギ：花9~10月 多年草</p> <p>穂先にノギと呼ばれる毛がない。</p>			<p>ヨシ：花8~9月 多年草</p> <p>川岸などに生える。高さ2~3m。</p>	<p>ミクリ：花6~7月 多年草</p> <p>野川の湧水沿いで見られる。</p>
<p>ウキゴリ：10 cm程度</p> <p>背びれが2つあり、第1背びれの後縁に黒点がある。</p>	<p>スミウキゴリ：8 cm程度</p> <p>ウキゴリに似て尾のつけねが黒いが、背びれに黒点はない。</p>	<p>クロダハヒ(トウヨシノボリ)：6 cm程度</p> <p>代表的なヨシノボリの仲間。流れの緩やかな場所にいる。</p>	<p>甲殻類</p> <p>カワリヌマエビ属：1 cm程度</p> <p>水際の水没した草の中に多数生息。</p>			<p>スズエビ：5 cm程度</p> <p>スズが明瞭。淵や淀みの大きな石の周囲に生息。</p>	<p>アメリカザリガニ：10 cm程度</p> <p>雑食性で水の汚れに強い。</p>	<p>サワガニ：甲幅3 cm</p> <p>野川本流には少ないが、湧水地に生息。</p>	
<p>ギンブナ：15~40 cm</p> <p>口ひげはない。背びれの1番目のとげがかたい。</p>	<p>コイ：40~80 cm</p> <p>フナよりも淀みや深いところを好む。口ひげは4本。</p>	<p>オイカワ：15 cm程度</p> <p>オスの婚姻色はきれい。しりびれが後ろにのびている。</p>	<p>貝類</p> <p>サカマキガイ：1 cm程度</p> <p>殻は薄く左巻き。水の汚れに強い。</p>			<p>カワニナ：3 cm程度</p> <p>ゲンジボタルの幼虫の餌として知られる。比較的きれいな水を好む。</p>	<p>両生類</p> <p>ニホンアマガエル：3 cm程度</p> <p>田んぼなどによく産卵する。</p>		
<p>アブラハヤ：10 cm程度</p> <p>黒っぽい線が1本ある。ねん液が多く、触るとヌルヌルする。</p>	<p>タイクハバラタゴ：6 cm程度</p> <p>目の周りが赤い。体の側面に青い線がある。</p>	<p>アユ：15~25 cm</p> <p>背びれと尾びれの間に脂(あぶら)びれがある。川底の石に生えた珪藻を食べる。</p>	<p>タイワンシジミ：2 cm程度</p> <p>マシジミに似るが、殻の内面が一面濃紫色。砂地に潜っている。あまりおいしくない。</p>			<p>ニホンアカガエル：5 cm程度</p> <p>林に棲んでいて産卵の時に水辺に集まる。</p>	<p>ウシガエル：12~20 cm</p> <p>特 貪欲に他の生物を食べる。牛のような声で鳴く。</p>	<p>アズマヒキガエル：6~18 cm</p> <p>身を守るために皮膚から毒を出す。</p>	

辺の様子



湧水地

下流は、多摩川との合流部が近いので、多摩川と野川を行き来する生きものも見られます。また、瀬や淵といった多様な流れが形成され、深いところには、コイやナマズなど大型の魚類が生息しています。

- クイナ：冬鳥 29 cm
- ハクセキレイ：留鳥 21 cm
- セグロセキレイ：留鳥 21 cm
- キセキレイ：留鳥 20 cm



水辺の草地で見られるが、警戒心が強く茂みに逃げ込む。



「チッチチッ」と澄んだ声で鳴く。よく尾を上下に振る。



黒色の顔に白色のまゆ。「ジジジジ」とにぎった声で鳴く。



お腹が黄色い美しいセキレイ。清流を好む。



茶色の穂を指で押すと種がふれ出す。



穂先に毛がある。水辺や湿地に生える。

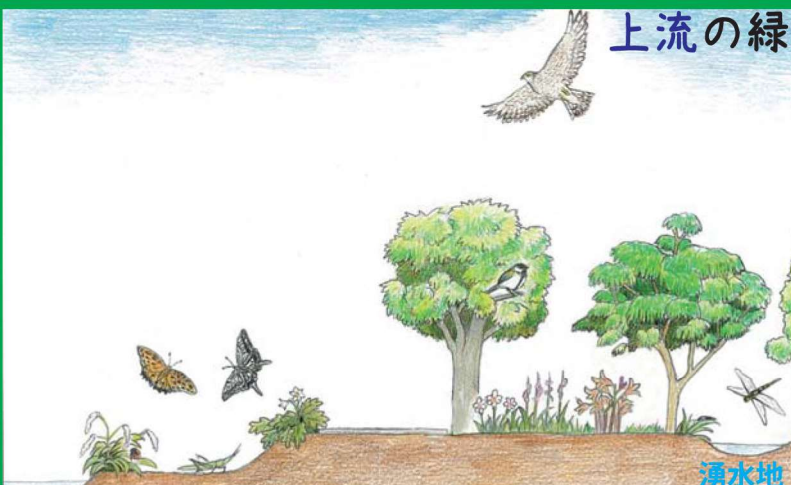


ハケの森の湧水地に群生している。



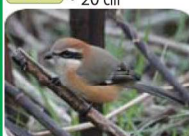
河川敷に繁茂している。

上流の緑



湧水地

- 鳥類
- モズ：留鳥 20 cm
- キジバト：留鳥 33 cm
- ハシブトガラス：留鳥 56.5 cm
- ハシボソガラス：留鳥 50 cm



見かけによらず獰猛。トカゲや昆虫などの小動物を食べる。



「デデポポー」と鳴く。カワラバトと違い1~2羽でいる。



「カアカア」とすんだ声で鳴く。ごみをよく荒らす。



「ガアガア」と濁った声で鳴く。鳴く時におじぎをする。



単独で行動する。春先には、やぶのふちや木の枝に姿を現す。



尾が短く、力強いくちばし。かたい種子も割って食べる。



低く飛ぶと雨が降ると言われている。人家にも巣を作る。



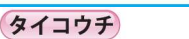
河原や大きな公園の樹木にとまり、大型の鳥などもねらう。



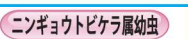
ハサミに毛が生えている。



4本肢に見えるが、短い前肢が2本ある。



鎌状の前肢で獲物を捕らえ、体液を吸う。



石粒で巣をつくる。きれいな水を好む。



体に模様がある。湧水地の水面にいる。



後肢にブラシ状の毛があり、泳ぎが得意。



石に付着する珪藻などを食べる。



大小の石を糸で組み合わせた巣を作る。



甲羅が柔らかく、泥底を好む。



とても臭いにおいがするためクサガメと呼ばれる。



石の上で甲羅干しをする。



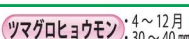
日本最大のヘビ。無毒だが、不用意に掴むと噛まれる。



護岸の上で日向ぼっこしている姿をよく見かける。



青緑と紫が美しいハチ。スズバチの巣に産卵する。



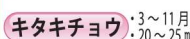
メスは前翅の先が黒い。幼虫の食草はスミシ。



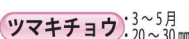
幼虫はギンギンを食べる。成虫は一度に遠くまで飛ばない。



成虫の状態を越冬するので、早春の頃はよく目立つ。



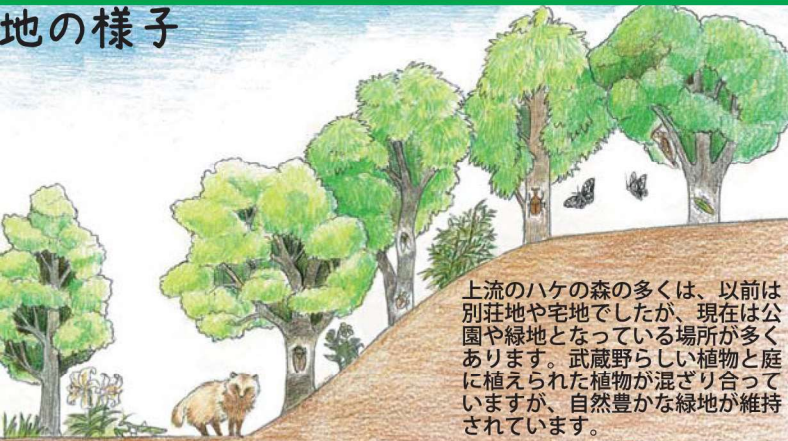
翅の裏がカモフラージュ柄。オスの前翅の先が黄色。



幼虫はイネ科やスゲなどを食べ、成虫は樹液に集まる。

野川流域の緑地の生きもの

地の様子



上流のハケの森の多くは、以前は別荘地や宅地でしたが、現在は公園や緑地となっている場所が多くあります。武蔵野らしい植物と庭に植えられた植物が混ざり合っていますが、自然豊かな緑地が維持されています。

下流の緑



緑地の生きもの図鑑

湧水地

オナガ：留鳥 37 cm ヒヨドリ：留鳥 27.5 cm ムクドリ：留鳥 24 cm シジュウカラ：留鳥 14.5 cm メジロ：留鳥 11.5 cm カワラヒワ：留鳥 14.5 cm コゲラ：留鳥 15 cm アオゲラ：留鳥 29 cm



カラスの仲間だが、尾が長く頭が黒く、羽はきれいな青色。



「ピーヨピーヨ」と大きな声で鳴く。街路樹でも見られる。



秋冬は群れて多い時は数千羽の集団でねぐらを形成する。



のど元から腹にかけてネクタイがあり、太いのが雄。



目の周りの白いリングが目立つ。梅などの花蜜をよく吸う。



ナタネなどの種子に群がる。飛ぶ時翼の黄色の部分が目立つ。



キツツキ類で最小。枯木に穴を開けて巣を作る。



日本固有の大型のキツツキ類。生木に穴を開けて巣を作る。



上空で羽ばたきながら静止し、餌をさがす姿がよく見られる。



夜にネズミなどを狩る。耳がよく、音を頼りに狩りをする。



根からデンプン採取し、つるはカゴなどの材料に使う。



とげが多く害草とされる。



夕方に花を咲かせることから名がついた。



つる性の植物。豆は熟すと黒くなる。



直射日光の当たらない場所に生育。有毒。



湿った日当たりのいい場所に生育する。

ツバメシジミ：4~10月 11~14 mm



翅にツバメの尾のような突起がある。マメ科の草原に多い。

ゴマダラチョウ：5~8月 35~42 mm



幼虫の食草はエノキ。落ち葉の中で幼虫越冬する。

カラアゲハ：4~9月 45~70 mm



後翅の表は青緑色で美しい。春はツツジの花などを訪蜜。

ショウリヨウバッタ：8~11月 50~80 mm



日本で最大のバッタ。イネ科植物が生える草地によく見られる。

オオカマキリ：8~11月 70~95 mm



丈の高い草地でよく見られる。緑色と茶色の個体がいる。

アブラゼミ：7~9月 53~60 mm



翅に茶色のまだら模様。「ジジジー」と鳴く。

ツクツクボウシ：7~10月 40~47 mm



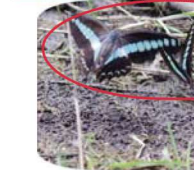
成虫は7月から発生するが、初秋になると鳴き声が目立つ。

タマムシ：6~9月 25~40 mm



色の美しさから宝石に例えられる。ハケの森で稀に見られる。

アオスジアゲハ：4~10月 45~55 mm

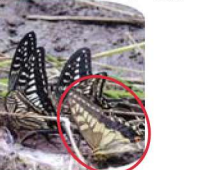


左がアオスジアゲハ、中央がナミアゲハ、右がキアゲハ。雨上がりなど急に気温が上昇した晴天の日には、アゲハ類が吸水に集まる。

ナミアゲハ：4~10月 53~60 mm



キアゲハ：4~10月 40~65 mm



オンバッタ：8~12月 20~40 mm



小さい個体をおんぶする姿をよく見るが、子どもではなく雄。

コバネイナゴ：8~11月 33~44 mm



田んぼや周辺でよく見られる。側面に黒色の線がある。

エンマコオロギ：8~11月 26~34 mm



日本で最大のオオオロギ。翅をすり合わせ「コロコロ」と鳴く。

ナミテントウ：3~11月 4.7~8.2 mm



成虫で越冬する。背中には7つのはん紋がある。アブラムシをよく食べる。

ナナホシテントウ：3~11月 5.0~8.6 mm



背中に7つのはん紋がある。アブラムシをよく食べる。



地の様子

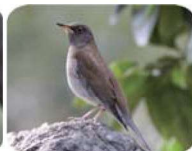


湧水源
下流は、周辺の宅地化が進んだため緑地は多くありませんが、残されたハケの森は、ボランティアによる積極的な活動にも支えられ、多様な生きものが暮らせる豊かな森として維持・保全されています。

エナガ・留鳥・13.5 cm **シロハラ**・冬鳥・24 cm **ツグミ**・冬鳥・24 cm **ウグイス**・留鳥・15.5 cm



樹木の多い公園等で見られる。繁殖期以外は群れて行動する。



腹部が白い。地面に降りて昆虫や木の実を食べる。

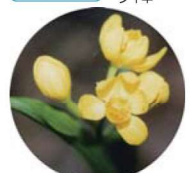


芝地などで2~3歩歩いては胸を張り止まる動作を繰り返す。



「ホーホケキョ」とさえずる。笹やぶなどで姿が見られる。

キンラン・花4~6月・多年草



林に生え、3~10輪位の花をつける。

キツネノカミソリ・花8月・多年草



明るい林床に自生。毒がある。

ヤマユリ・花7~8月・多年草



見た目が豪華「ユリの王様」と呼ばれる。

ニリンソウ・花4~5月・多年草



ニリンソウだが二輪じゃないこともある。

キボシカミキリ・5~11月・14~30 mm



触覚が長い。背中に薄黄色のはん点がある。

アカシジキカメムシ・6~8月・17~20 mm



成虫は美しく、コナラやエゴノキなどの果実の汁を吸う。

エゴヒゲナガゾウムシ・6~8月・3.5~5.5 mm



別名ウシツラヒゲナガゾウムシ。エゴノキの実に集まる。

貝類

ミスジマイマイ・4~11月・殻径19 mm程度



殻は右巻き。スジがはっきりしているものが多い。

カブトムシ・6~8月・32~53 mm



夜にクヌギやコナラの木を見て回ると、発見できる。

コクワガタ・5~9月・17~54 mm



日中は樹木の根際や土中に潜み、夜になると活動する。

ノギリクワガタ・6~9月・39~71 mm



長い大あごをもつ。樹木の高い所で休んでいることが多い。

哺乳類

ホンドタヌキ・40~50 cm



活動時間は主に夜間。雑食でなんでも食べる。